

東陽院標本

源氏授衣款合

永福款合

中書

一冊

一冊

544
夕
13

544
工
4



150 cm



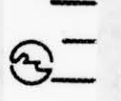
SEKISUI JUSHI



0



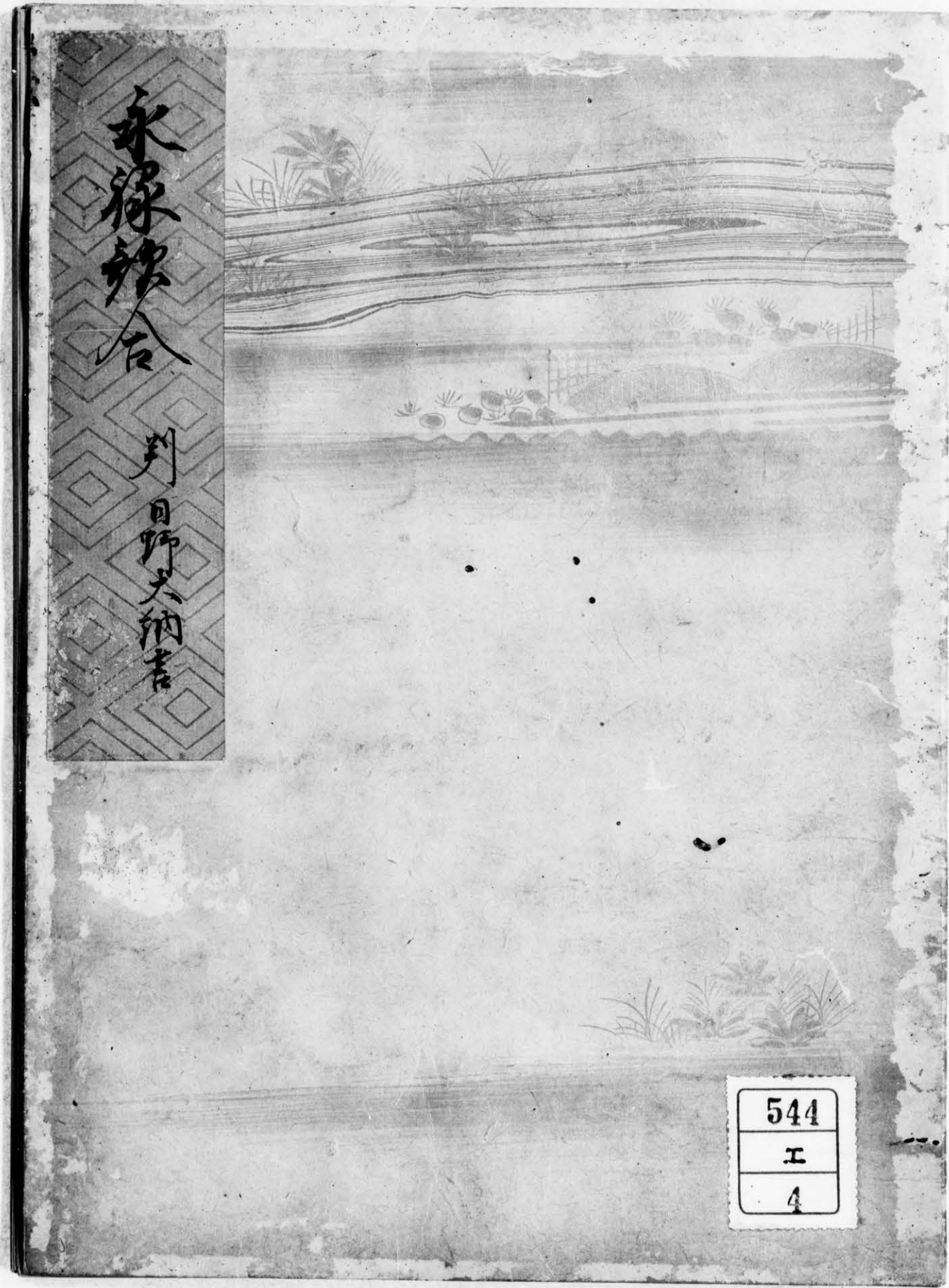
10



SEKISUI JUSHI



20



永祿拾合

對日師大納言

544
工
4

544
工
4



とくはなほらるゝのくくくくくくく
うけしむく月ほあましくかの色

た枝うけしむくくくくくくくく
ふ月けけけけけけけけけけけ
ゆきしむくくくくくくくくく
ありしむくくくくくくくくく
あつしむくくくくくくくくく
わくくくくくくくくくくく
あしむくくくくくくくく

とく

ん 井

妙門宣徳

けあけあけあけあけあけあけあけ
月しむくくくくくくくくく

七

八

月しむくくくくくくくくく
あしむくくくくくくくくく
月しむくくくくくくくくく
あしむくくくくくくくくく

とらふもいふ古の當方余の別して
とて縁に流るるを産まよと
ありとわしい初は思ふとてはわ
い何となく思ふとらふての難
あふはくして人て脚を

夏

た

女ゆき

あふふと月をほろふ小新とらて
ひらあきゆくをのまらつて

太極

新宗法

月を流るる新智のねらねと
あふ風のまらうとやけと

た古美のよとあふとてあふ
ふ新古とのあふとてあふ
てあふとてあふとてあふ
のねらねとあふとてあふ
とてあふとてあふとてあふ
新智のねらねとあふとてあふ

七上り六下り候に候は
直波あり是に下り候は
月よりの候は
候は

古

大

僧

候は
候は

大

僧

候は
月
大
候は
候は
候は
候は
候は
候は

交々といはれし月影のうら
ら〜月影のうらら〜にゆれし松
の影のうらら〜にゆれし松
の影のうらら〜にゆれし松

七巻

尾巻

ほろほろ

雪もなほ雪もくさくさ〜松風〜
ひら〜ひら〜ひら〜ひら〜

七

源頼朝

〜風もなほ〜松風〜
〜雪もなほ〜松風〜
〜雪もなほ〜松風〜
〜雪もなほ〜松風〜
〜雪もなほ〜松風〜
〜雪もなほ〜松風〜
〜雪もなほ〜松風〜
〜雪もなほ〜松風〜
〜雪もなほ〜松風〜
〜雪もなほ〜松風〜

湖上月影

月をみかねてはあはれなるなり
たの月をみかねてはあはれなるなり
あはれなるなりあはれなるなり
あはれなるなりあはれなるなり
あはれなるなりあはれなるなり
あはれなるなりあはれなるなり

十一

た 後

正 正

あはれなるなりあはれなるなり

あはれなるなりあはれなるなり

七

光 祐

あはれなるなりあはれなるなり

あはれなるなりあはれなるなり

あはれなるなりあはれなるなり

あはれなるなりあはれなるなり

あはれなるなりあはれなるなり

あはれなるなりあはれなるなり

十一

あはれの海やふく家よふくたの月夜よ
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの

たこ

あはれの海やふく家よふくたの月夜よ
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの

た

中切

た

新見原

あはれの海やふく家よふくたの月夜よ
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの
あはれはるはるの夜よふくたの

秋の暮るるに
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも

秋
大和

秋の暮るるに
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも

秋
十年

秋の暮るるに
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも

秋の暮るるに
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも

秋
十年

秋の暮るるに
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも

秋
十年

秋の暮るるに
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも

秋
十年

秋の暮るるに
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも

秋
十年

秋の暮るるに
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも
あはれなる
心ぞも

此例を以て今命を以てしるは
まじしをあらはしむるはし

月前局

十八日

人

夕陽

あつた月をみればはらへて
月とほつたはつたはつた

太

小舟

ふるのねをみればはつたはつた

そとをみればあつたはつた
んかつたはつたはつたはつた
まじしはつたはつたはつた
今命を以て今命を以て
大おのりはつたはつたはつた
ふつたはつたはつたはつた
まじしはつたはつたはつた
わつたはつたはつたはつた
まじしはつたはつたはつた

おきしるいおきしるいおきしるい
わいのこころより月をうたへて
八月十日の日の夜に
のこりの月をうたへて
のこりの月をうたへて
のこりの月をうたへて
のこりの月をうたへて
のこりの月をうたへて
のこりの月をうたへて
のこりの月をうたへて
のこりの月をうたへて

おきしるいおきしるいおきしるい

十六

五

中

おきしるいおきしるいおきしるい
おきしるいおきしるいおきしるい

七

光

おきしるいおきしるいおきしるい
おきしるいおきしるいおきしるい
おきしるいおきしるいおきしるい
おきしるいおきしるいおきしるい

よおみへてまほしむねしほしよのま
わりのくおちのるん月あけてる氣
とまぬしとて別のものゝ氣あふはに
ゆわくは月あふとあふくさうは
つりかたのうらさうの 後世の勢の
かゝりぬらうとわらうとわらう月は
感情初めりりゆわくたの情と
しむねしほし

たれ

た

ほし

秋の秋れあふわらうとわらう月あふく
ゆわくは月あふとあふくさうは

た

まな

たれこの秋れあふわらうとわらう月あふく
ゆわくは月あふとあふくさうは
たれこの秋れあふわらうとわらう月あふく
ゆわくは月あふとあふくさうは
たれこの秋れあふわらうとわらう月あふく
ゆわくは月あふとあふくさうは
たれこの秋れあふわらうとわらう月あふく
ゆわくは月あふとあふくさうは

この心も居るにあらんよと
能くしるや他をいふも
とすしるもすしるも
あましる正勢中唯旅
すしるして事とすしる

大正

大

五後

まはかりの翹かきしる
くわはかりの月のかかり

大

宗彦



あかりのひしる
月しるまはかりの
大正の月とかりの
るしるるるるるる
あかりのあかりの
あかりのあかりの
あかりのあかりの
あかりのあかりの
あかりのあかりの

周知の事なりと申すは
のりていふ事なりと申す
なりと申す事なりと申す
なりと申す事なりと申す
なりと申す事なりと申す
なりと申す事なりと申す
なりと申す事なりと申す
なりと申す事なりと申す
なりと申す事なりと申す
なりと申す事なりと申す

判者

日野一位大納言

永祿六年八月日

作者

左

右

中納言

魚智

檢校右衛門

新免源

沙門宣信

小寺

少卿言

大和

僧善倫

江福祐正

新宗隆

新玄考

僧光祐

源新辰

九州大學圖書印

二十

